令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体人		公益財団法人鹿児島県文化振興財団
施設人		霧島国際音楽ホール（みやまコンセール）
助成対象活動人		普及啓発事業
内定額(総額)		1,862 （千円）
	公演事業	0 （千円）
	人材養成事業	0 （千円）
	普及啓発事業	1,862 （千円）

（３）令和４年度実施事業一覧【普及啓発事業】

<table>
<tr><th>番号</th><th>事業人</th><th>主な実施日程
主な実施会場</th><th>概　要
（演目、主な出演者、スタッフ等）</th><th colspan="2">入場者・参加者数</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">ミニ・コンサート</td><td>R4 年 4 月 20 日(水)～
R5 年 2 月 7 日(火)
(全 31 回)</td><td rowspan="2">出演：みやまコンセール協力演奏家
企画・調整：西村彬
舞台技術：村場盛義</td><td>目標値</td><td>4,500 人</td></tr>
<tr><td>霧島国際音楽ホール
（みやまコンセール）
主ホール</td><td>実績値</td><td>2,521※</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">さてらいとコンサート</td><td>R4 年 11 月 12 日(土)
西之表市民会館</td><td rowspan="2">出演：みやまコンセール協力演奏家
スタッフ：峯崎幸一郎 等</td><td>目標値</td><td>1,000 人</td></tr>
<tr><td>R4 年 11 月 12 日(土)
牧之原中学校若駒分校</td><td>実績値</td><td>218※</td></tr>
</table>

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
当ホールは県民の音楽文化の振興と音楽を通した国内外の人流促進を図ることを主目的として設置された音楽専門ホールである。 普及啓発事業では，当ホールが開館当初より大切にしている事業である「ミニ・コンサート」において，開催日 1 カ月前の初日までに申込みを受け付け，1 カ月前に協力演奏家へ打診しプログラムを構成している。令和 4 年度もコロナウイルス感染症拡大の懸念により直前に延期や中止となったものが 19 公演あった。「みやまさてらいとコンサート」についても，事業の企画・内容を各市町村へ周知し，県全体の芸術文化を高める一助としての広報を行った。しかしながら，社会情勢が不透明な時期にあり，当該市町村教育委員会からの申込みが少なく当初の予定通りに事業を進めることができなかった。 よって，社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき，事業は適切に組み立てられたが，当初の予定どおりに事業を進めることができなかった。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
【文化的意義】 当ホールには令和 4 年度現在，みやまコンセール協力演奏家が 88 人登録している。これら地元演奏家の協力を得ることで様々な企画を実施することが可能となり，「ミニ・コンサート」や「さてらいとコンサート」を通して本県の文化・芸術の水準向上に寄与している。また，演奏家にとっても演奏の場を増やす一助となっている。 【社会的意義，経済的意義】 普及啓発事業「ミニ・コンサート」では，一般客のほかに近隣の研修施設と連携して宿泊学習研修プログラムの一つとして活用されているほか，県内学校の修学旅行や各種研修旅行などでも活用されている。料金設定を高校生以下 300 円，一般 500 円とすることで，普段コンサートに来る機会の少ない幼・小・中・高校生の利用がのべ 1,942 人にのぼり，全利用者の 71%と多い。また，未就学児や特別支援学校，福祉就労施設団体など（のべ 212 人）地域社会に対してまんべんなく受け入れるという点で社会的に大きく貢献していると言える。同様に普及啓発事業「みやまさてらいとコンサート」においても，生の音楽を聴く機会の少ない遠隔地や児童自立支援施設での無料コンサートを開催することは社会的，経済的に意義が認められる。 上記のことから，助成に値する文化的，社会的，経済的意義等が継続して認められる。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。

普及啓発事業

(1) ミニ・コンサート　目標値：4,500 人　実績値：2,521 人

①入場者数（全 31 回）：幼・保（3 団体）156 人，小学校（14 団体）250 人，中学校（15 団体）1,076 人，高校（3 団体）460 人，特別支援学校（2 団体）56 人，一般（4 団体）120 人,当日来館含む引率 403 人　計 2,521 人

②コンサートの感想：大変満足(82.7%)，まあまあ満足(13.6%)，やや不満，不満足(0.6%)…96.3%が満足と回答

③入場料：非常に高い（1.4%），やや高い(9.2%)，手ごろ(67.3%)，安い(21.7%)…89.0%が「手ごろ」「安い」と回答

④興味：来たい(74.2%)，来たくない(4.1%)，どちらとも言えない（18.9%）

各鑑賞団体の年齢や人数，要望，季節等に応じたプログラムやレクチャー内容の工夫に努め，当ホールの特性を生かした親しみのもてるコンサートを実施した結果，令和 4 年度は 31 回開催することができ,通算 1254 回となった。来場者アンケートでは，96.3%の来場者から「満足」との回答を得られたと同時に,「すごく響きがよかった。」,「もともと音楽に興味がなかったが，ミニ・コンサートを鑑賞して興味がわいた。」,「音楽の歴史も知ることができて演奏も素晴らしかった。」等，音楽への興味や生の音楽体験のよさ，当ホールの音響のよさや解説を交えたプログラムに対する肯定的な意見が数多く挙げられた。

ただ，新型コロナウイルス感染症の影響により，近隣施設の「霧島自然ふれあいセンター」の利用数も激減し，提携研修プログラムの一つである「ミニ・コンサート」も小学校が 7 団体少なくなった。

よって，目標値は目標に届かなかったが，有効性は目標を達成した。

(2) みやまさてらいとコンサート　目標値：1,000 人　実績値：218 人

①入場者数： 11/12 西之表市民会館 198 人，11/12 若駒分校 20 人　　計 218 人

令和 4 年度は，熊毛地区（種子島・屋久島）が主な開催対象地区となっており，5 公演を計画していたが開催希望は 2 つにとどまり，目標値には及ばなかった。西之表市の公演では市の意向に沿って客席を 50%に制限して開催した。児童自立支援施設では初めて生の音楽に触れる生徒もおり，さらに出演者と生徒が一緒に演奏することで音楽への憧れを強めていた。

いずれの会場においても来場者の反応がよく，音楽のすばらしさや音楽の力を改めて伝える機会となり，有効性という点で目標を達成した。

（３）効率性

自己評価
アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
令和４年度に計画した事業は，アウトプットに対して事業期間は適切であったが，新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止や公演延期となったものがあり，当初の計画どおりに進むことはできなかった。 普及啓発事業「ミニ・コンサート」,「みやまさてらいとコンサート」 希望月の前月１日までに申し込み，みやまコンセール協力演奏家の出演者を決定するという流れを滞りなく行うことができた。しかしながら，令和４年度も新型コロナウイルス感染症の影響でキャンセルまたは延期するという学校が相次いだ。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。
令和４年度に計画した事業は，アウトプットに対して事業費は適切であったが，新型コロナウイルス感染症の影響により公演中止や公演延期となったものがあり，当初の計画どおりに進むことはできなかった。 普及啓発事業「ミニ・コンサート」,「みやまさてらいとコンサート」 【計画】4,971 千円【実績】2,577 千円（△2,394 千円） 事業費は適切であったが,「ミニ・コンサート」では新型コロナウイルス感染症拡大による公演の見送り・キャンセル等により，公演数が 19 公演ほど少なく出演費，旅費が減となった。また,「みやまさてらいとコンサート」についても，予定公演数より減となり，また，出演費，旅費，宿泊費が予定よりも少なくなったことで減となった。

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
【劇場・音楽堂等の資源・実施事業の成果と反映】 普及啓発事業「ミニ・コンサート」,「みやまさてらいとコンサート」 　当ホールの「ミニ・コンサート」,「みやまさてらいとコンサート」は，県民の音楽文化の振興・普及を推進するために，当ホールを利用したくてもなかなか利用できない遠隔地の県民や，若年層に対する質の高い音楽の提供といった視点で極めて重要な事業と捉えている。舞台監督及び芸術文化専門員が司会を務め，協力演奏家によって演奏するスタイルは，実施団体への事後アンケートでも事業に対する評価を得るとともに，クラシック音楽のよさを指摘する声や今後の音楽鑑賞への意欲の高まりが感じられる声が多く挙げられた。 　以上のように，県民の音楽文化への関心やニーズを踏まえ「県民が聴きたい音楽」,「県民に聴いてほしい音楽」の両面のバランスを考慮しながら，世界に誇る音楽専門ホールにふさわしい質の高い音楽鑑賞事業を行うことができた。また，これからの音楽文化を担う人材養成や県内各地域への文化芸術普及のための事業の充実により，県全体の音楽教育，音楽活動・研修等への支援はもとより音楽文化の更なる振興を図ることができたと考える。 　よって，これらの事業は地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であったと認められる。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

普及啓発事業「ミニ・コンサート」,「みやまさてらいとコンサート」

(1) ミニ・コンサート

【開催後のアンケートより（総回答数 434)】

・　楽器やバッハのことはあまり分からずに来ましたが，心地の良い伸びやかな音を聴き，考えるより感じる 1 時間となりました。3 台のピアノに疑問もあったので，途中で解説も入り勉強になりました。チェンバロの音色が不思議で神秘的で素敵でした。時間や曲の長さも初心者にとってほどよく鑑賞ができました。

（自由記述 286 うち高評価 283）

【アンケート分析】来場者の約 80%以上が初めての来場であり，新型コロナウイルス感染症の影響により県外への修学旅行が増加することで県内の修学旅行プログラムが減少した。また，可能な限り参加団体の希望に合わせて日程・時間調整を行い，延期にも柔軟に対応することで芸術に触れる機会を確保しているが，令和 4 年度は直前のキャンセルや霧島自然ふれあいセンターの利用団体が減ってしまったため，提携しているミニ・コンサートの参加も減ってしまった。協力演奏家は時代のニーズ・季節感・発達段階に応じた選曲等で技術向上にも努めており，アンサンブルも積極的に行い，協力演奏家同士の交流も深まっている。

(2) みやまさてらいとコンサート

【開催後の感想より】

・　赤ちゃんでも気軽に聴けるコンサートと伺って楽しみにしていた。みなさんの奏でる音楽を家族で楽しめたことは久しぶりで，とてもよい機会に恵まれた。みやまコンセールから遠く離れたこの種子島でも，こんなにすばらしい演奏が聴けたことはたいへん満足。（一部抜粋）

【分析】来場者は乳児から高齢者，西之表市のみならず遠くは南種子町からも来場があった。入場者数を 50%に制限して開催したが，ほぼ定員に達する入場者数であった。演奏内容もジャズやディズニー，有名な曲などを多く取り入れ，曲目解説・楽器レクチャーなどを挟みながら学びつつ楽しめるプログラムであったとたいへん好評であった。

　公演前には，出演者が講師となり地元の高校生へ無償レッスンする機会を設けたり，リハーサルを公開したりすることで受講生及び指導者から「たいへん勉強になった」と謝辞があり，地域文化力の向上の一助に繋がった。

上記のことから，地域の実演芸術等の振興など，地域の文化芸術の発展につながったと認められる。

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
当ホールは，県内の関係自治体，教育機関，音楽団体関係者及び地域の各種団体等との緊密な連携のもとに各種事業を実施してきており，事業の企画や施設管理・運営に精通している。 【事業運営】 事業部門では，単にマネジメント事業者が企画する公演を買取り自主事業として実施するのみでなく，来演者による県内の児童生徒や音楽団体に対する指導，アウトリーチコンサート等による交流や，来演者と地元演奏家との共演など，県内の教育機関や音楽団体・関係者等との緊密な連携のもとに各種事業を企画・実施しており，職員の配置等においても事業課長兼舞台監督をはじめ，県レベルの音楽団体の役員等も務める県派遣の芸術文化専門員（教員）を配置しており，専門知識や人脈を生かした魅力的な事業を効果的，効率的に実施できる。 【経営戦略】 職員は，施設管理や音楽教育及び音楽活動などの担当業務に精通するほか，業務マニュアルや職場研修等により，担当業務以外の業務にも十分対応でき，全員体制でホール運営に当たることができる組織体制となっている。また，指定管理者制度も運用しており，当ホールによる評価だけでなく，県による実績評価も行っている。 【人事戦略】 当ホールがもつ優れたノウハウを維持する上で，職員派遣制度の果たす役割が非常に大きいことから，職員配置については，職員派遣制度を前提として，財団職員，県派遣職員，霧島市派遣職員及び臨時職員の配置を継続している。県職員は3～5年，霧島市派遣職員は2～3年の在任を基準としている。 また，年度当初において，全国公立文化施設協会等が主催する各種研修会への参加計画を立て，職員の職務内容，経験年数に応じ最適な研修を受講できるようにしている。今年度は鹿児島県公立文化施設連絡協議会主催の公演の準備･設営，スタッフとの連携等の体験研修に参加した。 【ネットワークの構築】 九州類似ホール連絡会に在籍し，他館との意見交換や情報共有を定期的に行っている。また，当ホールの自主事業の計画決定や施設の利用促進を図るにあたり，県民有識者である鹿児島県内の音楽関係団体や文化団体・報道機関等のトップで構成される懇話会も設置している。さらに，霧島地域の各機関・団体等のその後の連絡を緊密に行う地域連絡会も設置している。 これらの戦略等において，職員人事評価シートの作成や面談の実施，課内会議の実施，事業計画書及び事業報告書の作成，観客アンケートの分析，評議委員会による事業検証や各種連絡会での意見交換をもとに改善を図っている。つまり，単にこれまでの事業内容や企画を踏襲することなく様々な人･機関･組織･行政と連携し，Check，Action を検証しながら次の Plan，Do へと生かしている。 上記のことから，事業を通じて組織活動が持続的に発展すると認められる。